

Kavli IPMU–RIKEN iTHES–Osaka TSRP Symposium Frontiers of Theoretical Science–MATTER, LIFE and COSMOS–

多田 司 ただ・つかさ

理化学研究所副主任研究員

“Frontiers of Theoretical Science–MATTER, LIFE and COSMOS–”と題されたシンポジウムが、11月6日カブリ数物連携宇宙研究機構のレクチャーホールで開催されました。このシンポジウムはカブリ数物連携宇宙研究機構、理化学研究所理論科学連携研究推進グループ（RIKEN iTHES）および大阪大学理論科学研究拠点（Osaka TSRP）の三者の共催によるものです。これら三者の研究機関間では、カブリ数物連携宇宙研究機構と理化学研究所理論科学連携研究推進グループ、および理化学研究所理論科学連携研究推進グループと大阪大学理論科学研究拠点の間にそれぞれ研究協力協定が結ばれており、今回のシンポジウムは広範な科学研究の分野を対象として理論研究を行っているこれらの研究機関相互の研究協力

体制が具体的に結実した最初の例と言えます。

シンポジウムでは初めに理化学研究所理論科学連携研究推進グループの初田哲男グループディレクターが各研究機関の紹介とシンポジウムの趣旨を説明した後、文部科学省研究振興局基礎研究振興課の行松泰弘課長が挨拶に立たれました。

引き続き行われた最初の講演はカブリ数物連携宇宙研究機構およびカリフォルニア工科大学の大栗博司教授による弦理論に関するもので、カブリ数物連携宇宙研究機構の村山齊機構長もヒッグス機構に関する講演を行いました。

理化学研究所からはFranco Nori GD および杉田有治主任研究員がそれぞれ量子回路と生命系のシミュレーションの講演を行ったほか、大阪大学から藤本仰一准

教授が理論生物学の講演を行いました。

シンポジウムはカブリ数物連携宇宙研究機構およびマックスプランク協会の小松英一郎教授の初期宇宙と宇宙背景放射の観測に関する講演で盛会のうちに締めくくられました。シンポジウムではこの他に次の若手研究者による講演も行われました：Mauricio Romo、Jonathan Malts、難波 亮（Kavli IPMU）、北沢正清、松尾信一郎（大阪大学）、和南城伸也、瓜生耕一郎、紙屋佳知（理研）。

それぞれの講演のあとには活発な質問と討議が行われ、研究者同士の議論は昼食の席上、休憩時間またシンポジウム後に行われた懇親会でも続けられました。今回のシンポジウムの成功により、今後これら三者の間での研究協力が一層の実りをもたらすものと期待されます。

